

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
		分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

全体に解きやすい問題が多かったので、平均点はアップしたのではないかと思われる。
しかしながらこれは楽観すべき材料ではない。むしろその逆で、どの問題も白紙解答は許されない上にケアレスミスによる失点が直ちに致命傷となりうるということである。

<特記事項・トピックス>

理系との共通問題がほぼなくなった。(〔1〕が理系〔1〕と類似テーマの問題である)
〔4〕の(2)が少し難しいが、それ以外はいずれも取り組みやすい標準レベル以下の問題であった。

<合格への学習対策>

各分野から満遍なく標準的な問題が出題されている。
どの分野から出題されても確実に解けるように苦手分野があるなら早めに克服しておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	Ⅱ	平面座標	(1)は頻出の典型問題。(2)は「円の中心と直線ABの距離」および、「円の半径」を利用して弦PQの長さを考えるところがポイント。	標準
〔2〕	記述	I, Ⅱ	二次関数	二次不等式が常に成り立つための条件を考える問題。直線の通過領域から(答)を判断することもできる。	標準
〔3〕	記述	I, Ⅱ	積分	(1)は接するときの a の値を求める問題。(2)は(1)の結果を利用して面積を求める問題。日頃の学習の質が問われた基本的な問題である。	易
〔4〕	記述	B	数列, 数学的帰納法	(2)は一般項を予想し数学的帰納法でそれが正しいことを示す。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。